

事業概要シート

施策	0402	地域間交流の推進	<<>の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計 ※補正予算要求時は今回の補正予算額を除く ※次年度予算要求時は次年度繰越額を除く		
事業名	姉妹都市交流事業	現状維持	予算額	4,609 千円	<< 3,641 >>千円
事業期間	昭和54年度 ~		財 源 内 訳	国庫支出金	千円
根拠法令要綱等	伊丹市・大村市姉妹都市提携に関する協定、姉妹都市提携に関する協定書、大村市姉妹都市親善事業費補助金交付要綱			県支出金	千円
				地方債	千円
				その他	千円
		一般財源	4,609 千円		

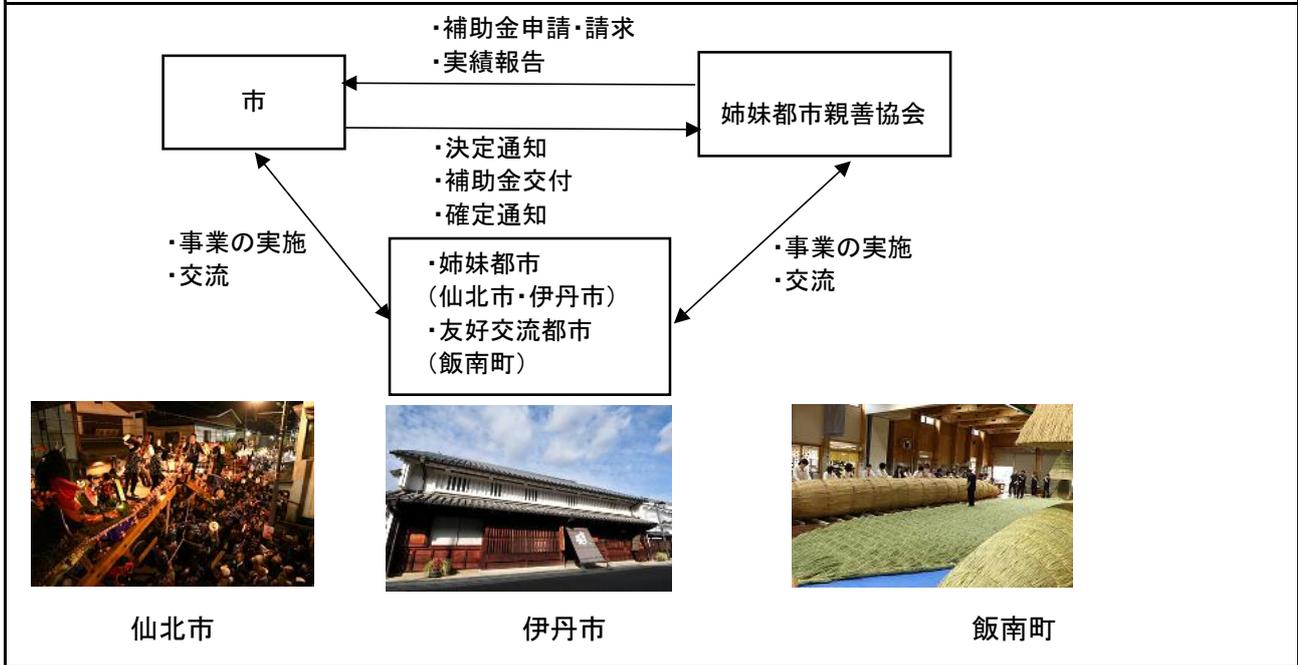
【事業の目的・概要・対象】

(目的) 姉妹都市、友好交流都市間の人的交流や経済・文化交流を活性化させる。
 (対象) 仙北市・伊丹市・飯南町及び大村市民、大村市姉妹都市親善協会

姉妹都市協定を昭和54年に仙北市(角館町)、昭和55年に伊丹市と締結した。5年毎の姉妹都市締結記念事業を市と姉妹都市親善協会の共催で実施している。また、平成27年に友好交流都市協定を締結した飯南町とは、青少年交流事業(1年おきに相互訪問)を実施し(偶数年度に大村市→飯南町の青少年交流ツアーが実施される)交流を深めている。

毎年6月には大村市で開催される「花菖蒲まつり」に仙北市、伊丹市、飯南町が物産展を出店している。また、令和6年度伊丹市で開催された「姉妹都市なかよしマルシェ」に市と物産振興協会が参加するなど、経済交流を図っている。

また、令和8年度については飯南町で製作している出雲大社のしめ縄の8年に一度の架け替えの年であり、友好都市を市民により知ってもらうきっかけとして、架け替え時期に合わせ、大村市姉妹都市親善協会主催の市民ツアーを開催予定としている。



【背景】

姉妹都市親善協会の会員数は減少傾向にあるが、それを補うだけの新規会員の増加は困難な状況である。姉妹都市、友好交流都市との交流を継続的に深めるため、さらに青少年等の相互交流を推進していく必要がある。また、物産振興協会等の関係団体と密な連携を図る一方、新規会員の加入促進にも努めていく。

担当課	商工観光部ふるさと物産振興課	課長	池 加寿子
担当者	青木 猛隼	問合せ先	0957-53-4111 (内線292)

事業概要シート

【活動指標】

指標名		単位	R 6 (実績)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)
①	姉妹都市・友好交流都市交流事業への延べ参加者数	人	729	1,500	1,650	1,650	1,650
②							

【成果指標】

指標名		単位	R 6 (実績)	R 7 (計画)	R 8 (計画)	R 9 (計画)	R 10 (計画)
①							
②							

【予算・決算】 (千円)

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	合計
事業費	1,974	3,303	3,641	4,609	3,641	3,641	20,809
国庫支出金							0
県支出金							0
地方債							0
その他							0
一般財源	1,974	3,303	3,641	4,609	3,641	3,641	20,809
人件費	1,902	4,720	6,752	6,752	6,752	6,752	33,629
職員(人)	0.25人	0.37人	0.65人	0.65人	0.65人	0.65人	3.22人
時間外勤務(h)	42h	182h	180h	180h	180h	180h	944h
会計年度任用職員(人)	0.00人	0.90人	0.90人	0.90人	0.90人	0.90人	4.50人
フルコスト	3,876	8,023	10,393	11,361	10,393	10,393	54,438

妥当性 (市の関与)	大村市姉妹都市親善協会等の民間団体における交流を推進するため、記念事業や各種交流事業への市の関与は妥当である。
有効性 (施策貢献度)	姉妹都市及び友好交流都市間の人的交流、経済・文化交流を活性化させることは、地域間交流を推進するための手段として有効であり、必要な事業である。
効率性 (コスト)	姉妹都市親善協会への補助金について、これまで見直しを図りコスト削減に努めており、報酬及び旅費も必要最小限であるため見直す余地はない。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり